

# 正田洋一

## 市議会レポート

第 8 号

### 桜山での花見祭

四月五日にNPO法人うきしろ桜山会の主催のお花見祭を実施致しました。今回は、昨年引き続きお花見祭の隊長をさせて頂きました。

桜山は、以前から会員の皆様とともに植樹や掃除に取り組んできましたが、一番桜が美しい時期にお花見を開催し、新しいスポットであることを知ってもらいたいとの思いがありました。また、構想段階ではありますが、築城四五〇年記念祭には、「三原城跡公園」や「桜山城」の歴史をピックアップし、大規模な花見祭を実施したと考えております。

また、今後ずっと、歴史と観光と地域の誇りとしての残したいとの思いがあります。今回は、会



桜山はゆめキャリアセンター併設のため、雨の日でも花見ができる絶好の場所です



三原市議会議員  
正田洋一

“未来を考える”

“地域をもっと元気にする!”

員有志とその家族やお友達、港町・館町・本町の町内会の皆様とお花見を実施しました。若手有志の会で、豚汁・ポップコーン、綿菓子を準備させていただき、ビールやお弁当を持ち込み楽しい時間を過ごさせてもらいました。



満開の桜山

また、多くのチャリティもいただきました。チャリティで集まったお金は、お花見会の運営資金にさせていただきます他、今年度の植樹や整備の活動資金とさせていただきます。ご参加いただきました皆様にお礼申し上げます。今後ともよろしくお願ひします。

### ご挨拶

市議会議員にさせていただいて約二年が経過しました。当初予算審議も二回目となりました。この度は、予算特別委員会の副委員長長の経験をさせていただきました。今までは、チェッカーの立場で委員会に望むのですが、今回は予算を成立させる立場で、円滑に議論を進めることが役割でした。勉強になりましたが、指摘をしたことは、言えませんでした。この付近は、総括質問の中でさせていただいています。主に二、三月議会の議論と日々の活動について報告致します。

### 白竜湖花火INだいわ

四月十一日に「白竜湖花火inだいわ」に行ってきました。イベントの企画・運営をされた皆様には敬意を表します。すばらしいイベントで約一万五千人の方が、参加されたとお聞きしました。最高の成果だと思えます。

お祭りは、仲間達と楽しませていただきました。約五〇人でバスを借りて、現地にお邪魔し、バーベキューをしながら花火を楽しみました。花火が上がる時、地元の方と思われる人が涙ぐまれているような光景をみて、感動しました。また、準備の過程で一週間前から現地視察、前日から場所取り、資材搬入等、現地のスタッフ



白竜湖でのバーベキュー模様  
この後、花火で感動

フの方々にも支援いただき、よいものでした。新しい友達もでき、たくさんお話もでき、子ども達と走り回り、最高の一日でした。

実は、このイベントに対して思うところがありました。旧大和町民の方々が、旧三原市と合併して疲弊を感じた原因に花火がなくなったことがあげられると聞いていました。議会においても、市民アンケートをする際に、仮説をもって、衰退の原因を調査し、その解決策を見いだしたい。大和の花火を一例に私は質問しました。衰退の本当の原因は、高齢化・人口減の経済面ですが、心の部分、それが花火だと思っています。一方で、祭りと呼ばれる予算のバラマキに対しては、懸念を持っていましたのも事実で、目的、効果などが語られずに、市長や議員のパフォーマンスのために、補助が決定する事についてはよいと思っていません。新年度予算でも4月開催のため、議会への説明前に、開催発表がありました。多くの議員は開催発表で知るといふものでした。その付近については、予算審議の過程で少し厳しい質問をさせていただきましたが、開催自体を意味の濃いものにしたという思いで、意見を言わせていただきました。もちろん今後、担い手としても関与させていただきたいと思っています。



感動の場面

## 桜山整備活動

四月二十六日の作業の様子です。この日は、土嚢作り、階段作り、桜への肥料やり、掃除等を行いました。

花見が終わったら今度は雑草との戦いです。いつもシニアの先輩方に頼りっきりの私ですが、夏の間は頑張ります。



意味なくヘルメットを被ってみました

## 三原市の観光を考える

### Part3

「正田洋一の思い」  
Youichi Acolumn

市長の強い思いから、様々な観光の施策が実施されています。私は、従前から言っているとおり、「人数」ではなく、「人数×単価」だと思っています。もう一つは誰に何を提供するのが重要であると考えます。現在、様々なイベントでPR活動が行われ、市長も先頭に立たれています。しかし、ターゲットが明確じゃなく、何を提供するかははっきりしていないんです。

私は、三原が観光で経済効果を上げるには、宿泊を狙うしかないと思います。もちろん簡単にできることではありません。しかし、尾道、竹原という知名度の高い街を両隣に位置し、交通の要所の利点から考えれば、

宿泊を狙う策を徹底的に考える。それがいいと考えています。先日、松江にきました。山陰は、観光広域連携していますが、松江の一人勝ちだそうです。なぜか、宿泊を松江（玉造温泉含む）が獲得しているからです。その付近がヒントになるような気がします。

話は変わりますが、先日、合併一〇周年記念で三原のマスコットキャラクターがきまりました。不満の声も多く聞きました。私もびっくりしたのが正直な感想です、私の隣の座ったある議員もキャラクターではなく、ミスやっさの写真を撮っていました。しかし、キャラクターをどう生かすか考えています。



やっさだるマン登場



■ 一般質問

市税収入について

税の回収状況は？

課題認識

この質問は、シンクタンク「構想日本」の勉強会がきっかけでした。三原市は、税の回収率は悪い方ではないが、滞納金額が多いとの指摘をうけました。私は、回収率が悪くなく、よく税制収納について取り組まれているとの認識はありましたが、累積の滞納金額についての視点が欠けていました。普段、あまり市民の皆様の目の届かないところであり、私たち議員も見落としがちなこの課題について明らかにすることでした。

質問

市税収入について聞く。税と言えば、使う方が注目されるが、収入部分の課題と現状と対応策について聞く。市税は、現年収入率が九九・二%と高い数字で推移している一方、滞納回収率は二〇%以下と低い。このギャップを課題と捉えている。また、滞納税額は、市税で五億六千万、国保税で五億、約一〇億六千万が未回収となっており無視できる数字ではない。欠損金も昨年度で九〇〇〇万円程度となっており、滞納回収の対策があれば、欠損の削減ができるのかどうか。また、未回収の状況を別の視点でみる。金額ベースの収入率でなく、人数ベースの収入率はどのようになっているのか。

回答

市税収入について、現年収入率は、九九・二%で県内では広島市を除く十三市中二位、ここ三年間は九九%以上の確保をしている。市税の未済額は、二十二年度末八億一千万に対して、二十五年末五億

六千万で、国保は、同じく二十二年度末、七億六千万が二十五年末五億と確実に縮減が進んでいる。その要因として、早期未納者に対する納税案内センターを設置したこと、コンビニ収納を導入したこと、財産調査を行い、適切に差し押さえを行っていることがあげられる。人数ベースの滞納者数については、二十五年六月末、市税、国保税で五〇四六六人に對し、二十六年六月末で四六一三人となっている。また、一〇〇万円以上の高額滞納者は、三%にあたる一四八人で、収入未済額割合の三四%にあたる三億六千万円を占めている。今後の対応については、納税案内センターにおいて、現年収入率の維持に努めるとともに、滞納繰越分については、財産調査や差し押さえを実施し、収入未済額の縮減を図る。

総括

本質問は、実態を明らかにする目的でした。実態調査の過程で三原市が三年前からこの課題について、真摯に取り組まれており、成果が出ている途中であることが確認できました。しかしながら、滞納税額は少ないとは言えない状況であり、引き続き現年収入率と滞納税額のギャップに注視していきます。改善の対策は、現年回収率の維持と滞納回収率のアップで、継続は力なりであることも分かりました。

財政運営の基本的考え方

税の回収状況は？に予算が増えているのはなぜ？

問題意識

二十七年年度の予算審議のあたり、その姿勢を聞くものです。予算規模は、一般会計四八〇億円超で大きく増えています。二十七年は、学校耐震化などの必要な社会資本整備もあるのですが、気になるの



は、社会資本整備がどんどん膨らむ方向性と合併一〇周年記念予算と称した祭りなどへのばらまき予算です。市長は、選挙の際に財政の厳しさを争点にしたはずですが、市長になったとたんにはばらまきに転換です。昨年の、事業仕分けも骨抜きであり、削減を行っていません。言い方を変えれば、選挙を見据えたばらまき予算ともとれません。それを牽制するものです。

質問

来年度の予算について聞く。来年度は、基礎的財政収支(プライマリーバランス)がマイナスで赤字予算となる。赤字予算については、学校耐震化・統合小学校建設・斎場建設・消防庁舎の土地購入等、必要不可欠な社会資本整備があり、赤字予算そのものを指摘する意図ではないが、築城四五〇年事業をはじめ、元気な三原に取りくむ事業がたくさんあり赤字予算が続く見込みである。入りの財源見通しでも地方創生の予算はあるが、税収が減っていく傾向の中で使うお金をどんどん増やす状態に危機感を持つ。経常収支比率でも二〇一三年のデータで九〇・四%であり、全国七九一自治体中四五一位であるが、この数字は、今後三年間悪化する。この状況の中、今後「三原市の財政は健全です」と市民の皆様へ説明するのか。また、今後の財政見通しと投資方針をどのように考えるのか聞く。

具体的には、赤字予算は四年後に解消できるのか。経常収支比率の想定はどうか。また、庁舎整備・駅前東館跡地など社会資本整備は、どんどん膨らむ方向性で議論が進んでおり、危惧している。本来は、社会資本整備そのものを見直さなくてはならない時期にきている。また公共施設マネジメントは策定中ではあるが、二十七年取り組む公共施設は、この中で整理されていない。現在取り組む社会資本整備

においても、統合・整理・廃止の視点が大事だと思  
う。自治体経営においては、財務管理の視点がトッ  
プの一番の責務であり、増やすものがあれば、減ら  
すものがある。その付近を語らずに、増してばかり  
では無責任ではないか。

※赤字予算：正確には赤字予算という言葉はありま  
せん。ここでは、わかりやすくするため借入が超過  
する予算を赤字予算と言っています。

回答

昨年六月に策定した新市建設計画の財政計画で  
は、借入超過になるのは二十九年度予算までで、経  
常収支比率は、二十六年に九四・一％、三十一年  
度に九六・三％をピークの減少する見込みである。

今後は、歳出における経常経費を削減する事だ  
が、社会保障費や保健医療の繰り出し金の削減は難  
しいことから建設事業費、施設管理費等の削減に取  
り組む。公共施設マネジメントについては、現在着  
手している段階であり全体の方針を整理して進めて  
いくが、ご指摘のとおり、



現段階の建設事業におい  
てもコスト削減の視点をもち  
取り組んで行く。  
指摘のあった経営管理の  
視点については、予算編成  
の段階で事業の重要度、優  
先度を明確にし、集中と選  
択を基本とする。

再質問

部長の回答では、建設事業費、施設管理費等を見  
直すとはわかった。一例を出して市長に聞  
く。二十七年九〇〇万、二〇八年度に一億円で、  
高坂自然休暇村のリニューアル予算が先日の議員全  
員協議会で説明があった。リニューアル自体は悪い  
と言っている訳ではないが、目的・効果が曖昧であ

る。また例えばここにはキャンプ場がある。キャン  
プ場は、実は、久井（宇根山）や大和（棲真寺）に  
もある。元々は一市三町の時代に別々に整備された  
ものであるが、三つの稼働率を精査されたものか。  
また、この三つの施設は市役所内でも別の部門が  
個別に管理しており、整理調整された気配がない。  
この様な施設の必要性は理解しているが、稼働率が  
低い施設を別々に整備・維持する財源的な余裕が三  
原市にはあるのか。これは一例だが、市の施設に同  
様なものがたくさんある。繰り返しになるが財政に  
責任をもつのが市長の責務であり、持続可能な自治  
体経営のためにも一〇年後、二〇年後を見据えた予  
算編成にしていきたい。三十一年度に経常収支  
比率が、九六・三％までいくと、それ以降は、ほと  
んど事業ができない。行政は倒産しないが、それ以  
降の責任を結果的に放棄される形になっても困る。  
その付近について市長にお答えいただきたい。

回答

事業費削減について、個別の建設事業を見直して  
いくことは認識している。財政指標では市長就任当  
初から起債残高と経常収支比率に注視している。指  
摘はもつともであり、行財政大綱の運営方針をふま  
え、行財政運営に取り組む。

総括

市長の答弁をいただきました。回答は、取り  
組むとのことでしたので、今後は、この回答を  
踏まえ個別に委員会等で指摘していきます。ご  
指摘はごもつとも言いながら、あまり詳細を  
理解されているのか疑問ではありますが、事前  
に財務部長とのやりとりでは、私と同様な危機  
感を持っておりこの付近が、今後、指摘すべき  
点だと感じました。

政治資金収支報告書

二十六年年度の政治資金収支報告書を広島  
県に提出させていただきました。これは、  
政治活動の収支を報告するものであり、政  
務活動費とは別のものです。政務活動費は、  
会派に支給されるため、議会が発行する議  
会だよりに掲載されます。私の政治資金収  
支は、この議会レポートの発行費とホーム  
ページに維持等に使われる宣伝事業費にな  
ります。昨今、問題となった国会議員の政  
治資金問題については、後援会のイベント  
などで、議員が個別に参加者の会費の一部  
を負担したものです。それは市議であつて  
も同様に違法行為です。私は、資金パー  
ティー・後援会主催のスपोर्टツイベントな  
どは実施しておりません。また、宣伝事業  
費はすべて自己資金で運営を行っています。  
なお、二十六年年度の掲載はまだですが、二  
十五年度は、県のホームページで閲覧可能  
です。

収支表

前年度繰越	151,846
本年收入	1,000,000
支出総額	1,124,505
翌年度繰越	27,341

収入内訳

個人からの寄付	1,000,000
法人からの寄付	0
政治団体からの寄付	0
合計	1,000,000

※個人からの寄付は全て自分(正田洋一)からのものです。

支出内訳

宣伝事業費	1,124,505
作成費等	451,536
郵送費	456,969
HPデザイン費等	216,000

※作成費等には、封筒封入作業も含む。



# 庁舎整備の 行方

## ～議会の模様と私の考え方～

庁舎整備が、現在地への建て替えで決定したことは前回お伝えしておりました。私は、反対の立場をとりましたが、これは議決事項であり、今後議論を

ひっくりかえすつもりはありませんし、それはやってはいけないことだと思っています。しかし、駅前東館跡地開発とともに社会資本整備として一体化して考えるべきだとも思っています。私は、庁舎整備特別委員会の所属ではないので、個別に意見を言う機会がなく、会派の同僚議員に意見を託すしかないので、庁舎整備は、簡素かつコンパクトで機能的でコストを低減し、転用可能な施設にするべきだと思っています。

駅前につくると言う想定であれば、市民の皆様が集える憩いの場・広場との連携という考え方もあったのですが、現在地で建て替える場合は、コストを抑え利便性を高めるべきだと考えます。庁舎特別委員会の中では、「会議室を増強し、休日は市民に開放すべき」、「1階のホールにピアノを置くべき」、「展望台をつくるべき」、「最上階にホールをつくるべき」、「水辺のカフェを併設するべき」、「広大な駐車場を完備するべき」とか様々な意見が出ていますが、あの場所に作る以上、市役所機能に限定し、市民の皆様の手続き時間をいかに短縮し、機能的で簡素でコンパクトにするかが勝負だと思います。公共施設といえすぐにカフェだの憩いの場なのという議論は、行政運営コストを増やすだけです。もし、他の施設との連携や統合を推進するなら他の機能を置くのも一案だとは思いますが、投資・維持コストという観点から、今後もその方向性でコストをにらみながら議論に望みたいと思っています。ぜひとも皆様のご意見もお聞かせ下さい。



市役所の1階にピアノは本当に必要？  
そこが議会での議論のポイントではないと思います。

# 駅前東館の 議論の行方

## ～議会の模様と私の考え方～

駅前東館跡地活用については、ここ数年三原市を二分し、激しい議論が展開されてきました。私自身も自分の考えを明確に述べたために、駅前市役所移転論者と揶揄され、攻撃の対象にもされてきました。ただ、間違っ

てはいけないのは、「中心市街地活性化」のための手段の議論であって、決して悪意のあるレッテル貼りをして物事が解決するわけではありません。

現在されている議論は、図書館・広場を市の負担でつくり、それに民間施設の誘致提案を求めるといったものです。新聞紙上では、図書館を誘致するとの報道から、争点が図書館の「良い」か「悪い」かの議論になっています。

まずは、議会の委員会の模様から。以下が、主な意見です。  
「図書館では、活性化ができないからダメだ。」、「今までこの場所に多額の予算を投じてきたこれ以上投資はすべ



きでなく、このままがいい]、「駐車場がないので投資しても難しい]、「市民の皆様が良ければなんでもいい]、「市長の提案を審査するのが議員の役目であり、市長の提案をまずは受け入れ、まずは図書館で民間からのプロポーザルを進めるべきだ」という意見があります。このなかにはどうしたいという提案が全くありません。指摘だけの議論に終始し、前に進まない現実があります。

私の意見を述べますと、まずは、駅前東館は、内需での活性化を求めるのか、外需での活性化を求めるのかによって方針案が変わってくると思います。私は内需を中心にした住みやすいまちづくりに主眼を置き、広場、港湾を活用した外需をソフト事業で求めるべきと考えています。従いまして、図書館および広場機能に加え、公共施設として、西館の空き部分を含めて、福祉会館をスクラップして会議室機能を持ってくる、知の拠点として県立広島大学のサテライト教室を設置する、民間施設として、病院、シティホテルをプロポーザルの必須条件として求めることを提案しています。

民間施設は、この2つ以外は、民間の提案を待ちたいと思っています。私は、駅前周辺の人口増加も踏まえ、高層階にマンションがあってもいいのではないかと考えています。但し、あくまでも民間進出があればの話です。

この条件でプロポーザルを実施し、応募がなければ、第2案として、広場を、暫定的にステージや屋根などを設置し、イベント広場として、今とは違う、全天候型の場所として、また、ソフト事業でイベント誘致をするのがよいと考えています。なぜ第2案を持っているのかと言えば、駅前開発に妥協はしたくない。しかし、行政負担を増やしたくない。今のままではいけない。また、ここ数年の社会資本整備計画から償還時期が一気にやってくる点を考慮しています。これについても私の現在の考えで結論ではありませんので、皆様のご意見を聞かせて下さい。ただ、駅前東館跡地活用の特別委員会の議員の議論が無責任すぎて、情けなくなります。本来チェッカーが役割の議員ですが否定だけの議会、これでは存在意義はないのです。

※知の拠点構想については、現在提案中で、まずは講座開設なら可能性ありとの回答をいただいています。



武雄市の図書館の事例はすばらしいが、三原市にあった事例か？ TSUTAYAが来るあてがあるのか？もう一度考えるべき

## 編集後記



多種多様な考え方がある中、私の考えをどうお伝えするかという点をいつも考えます。例えば、先述した駅前東館跡地の問題がありますが、図書館を作ることが、「良い」とか「悪い」との意見を中心として議論が展開されており、両方の意見があります。自分の考えは、「コラム」で述べさせていただいたとおりです。しかし、多くの議員は、自分の反対の意見を持っている人から、厳しい指摘をいただくことやご支援をいただけなくなる恐れがあり、自分の考えを述べなくなってきています。時には、市民の皆様が良ければ何でもいなんて発言をする議員さえいます。しかし、私は、自分の考えを述べ、それに皆様の意見をその考え方の中に組み込んで行くべきだと思っています。駅前東館跡地の課題の最終目的は、「中心市街地活性化」であり、目的は、ほぼみんな同じなのです。私の考え方は、前述のとおり、活性化の定義が何で、その手段には何があるのかということをおまへに決定しなくてはなりません。

駅前東館跡地特別委員会の議論をぜひ傍聴にきてください。生意気なことを言わせていただくようですが、どの議員が本気で考えているのかいないのかよくわかります。私の印象ですが、この種の2分した議論には、深みにはまるので議論を掘り下げたくないか、関与を薄くして責任を取りたくないのか、どちらかの議員が多いです。そう感じます。庁舎整備の課題もそうです。

**話を戻しますが、私は自分の考えを述べるということもこれからもやります。もちろん、多様性の意見を取り入れながら、変化させながらベストな答えを見つけていきます。決して、市民の皆様が良ければ何でもいなんてことをいうつもりはありません。いろいろとお話をお聞かせ下さい。もちろん、皆様の思いとは違う判断をする場合もありますが、引き続き、ご指導・ご支援よろしくお願ひします。**